

令和6年9月24日

鈴鹿市長 末松 則子 様

鈴鹿市男女共同参画審議会
会長 藤原 芳朗

鈴鹿市男女共同参画推進条例第13条第2項により本審議会を開催し、令和5年度鈴鹿市男女共同参画基本計画の実施状況について評価を行い、意見をまとめましたので下記のとおり提言いたします。

なお、令和5年度は、第2次男女共同参画基本計画の最終年度であることから、計画全体を総括した意見並びに提言としています。

記

1 成果指標 「男女共同参画意識の普及度」に関する取組について

令和4年度から「男女共同参画意識の普及度」が3.5ポイント上昇し、最終目標が達成できたのは、各課の取組の成果である。一方、評価が下がった事業もあり、課題の精査と改善に向けた継続的な取組が求められる。今後も幅広い層を対象に調査を続け、年齢や性別を問わず、市民への効果的な啓発活動に取り組んでいただきたい。

2 成果指標 「男女比率が適正な審議会などの割合」に関する取組について

令和3年度までは「男女比率が適正な審議会などの割合」は順調に推移していたが、令和4年度以降当該割合は低下している。地方自治法第180条の5に基づく全ての委員会等で女性委員の不在の状況が解消されたことは評価できるが、県内一の女性委員登用状況で先導的な役割を果たしている鈴鹿市として、女性の進出が進まない専門分野からの選出が難しい審議会等や、逆に女性の登用率が60%を超えている審議会等が改善されなかったことは課題である。今後、各審議会等で委員の選出方法等強く働きかけ、女性委員の登用拡大、男女比率の適正化に向けた取組を継続的に実施し、改善に努めていただきたい。

3 課題Ⅰ 「男女共同参画意識の普及と向上」に関する取組について

各事業、情報発信が活発で、大学や高等学校との連携やウェブサイトの充実、関係機関との連携により、若い世代へも情報発信が促進されたことは評価できるが、「ジェフリーすずか」の認知度は、最終目標には及ばず、センターが担う役割の発信と啓発活動の強化が必要である。

さらに、外国人市民の割合が総人口の約5%を占める鈴鹿市において、ダイバーシティの考え方を推進する上で、基本的な価値観を共有する多文化共生意識の普及について、積極的に取り組んでいただきたい。

4 課題Ⅱ 「あらゆる分野における男女共同参画の推進」に関する取組について

就労の場では、行政におけるワーク・ライフ・バランスの実現に向けた取組が評価される一方、仕事と子育ての両立や、農業分野での女性の就労、活動についてきめ細やかな支援が必要である。

地域や家庭においては、男女がともに参画し、活躍ができるよう意識の向上に取り組んでいただきたい。

教育分野ではメディア・リテラシーの向上に向けた取組が今後必要であり、子どもたちとその保護者への教育とサポート体制の強化が必要である。

5 課題Ⅲ 「ジェンダーの視点に立った人権尊重と性差に応じた健康支援」に関する取組について

各施策で目標に向けた積極的な取組がなされており評価できる。セクハラや DV は重大な人権侵害であることの認知度がまだまだ低いことから、引き続き啓発活動や適切な支援に努めていただきたくとともに、デジタル化が進む中、様々なツールを活用した相談体制を今後も推進していただきたい。

また、性差に応じた健康支援には、性に関する正しい知識が必要であり、こうした知識の習得には、持続的な教育体制を構築することが重要であり、専門職員等と連携して取り組んでいただきたい。

6 第2次男女共同参画基本計画の総括

平成 28 年からの取組により、男女共同参画意識の普及度が向上し、最終目標を達成した。また、「審議会等委員への女性の登用推進方策」に基づく事前協議のシステムを定着させ成果を上げるとともに、第2次基本計画では審議会等の「男女比率の適正化」に着目し取り組んできた。しかし、女性の進出が進まない専門分野における審議会委員の選出は依然として難しい状況であり、最終年度の「男女比率が適正な審議会などの割合」は 52.8%との結果となった。一方「全審議会等委員の全体数における女性委員の割合」は 43.7%で、全国平均の 28.5%と比較して高い水準にあり、全国のロールモデルとしての役割が大きい市であるため、今後も継続的な改善に向けての取組とともに、女性委員の積極的な登用拡大に向け、市全体で取り組んでいただきたい。

第2次基本計画策定当初からみると、新型コロナウイルス感染症により社会情勢は大きく変化した。その中にあっても啓発活動等事業を着実に進めており、これまでの成果と課題を踏まえ、次期計画ではより一層の改善を図っていくことが重要である。

男女共同参画社会の実現には、あらゆる分野での取組が重要である。引き続き、関係団体と連携し、継続的な啓発活動・支援体制の充実を図っていただきたい。